



夢・いっぱい

第8号

令和2年10月27日

○ 2020年度の経営方針：今日の学び合いを楽しみ、明日が待ち遠しい学校づくり
～ 開かれた学校において、「愛宕の子」として地域と共に育てる ～

コロナによる「第3の感染症」を防ぎましょう

校長 原田 剛

国内における新型コロナウイルス感染症の不安が払拭できない今日、各種メディアでは、「第3の感染症」、つまり、新型コロナウイルスの感染に伴う不安からくる「差別」が、たびたび取り上げられています。

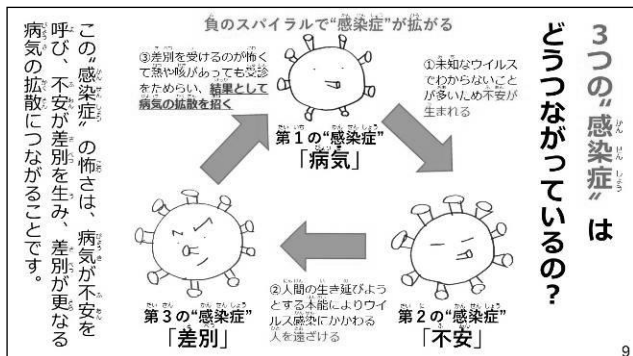
先日の文部科学大臣表明では、保護者や地域の皆様に向けて、

- ・誰もが感染する可能性があり、感染者や所属機関の対応を責めるのではなく、衛生管理を徹底し、更なる感染を防ぐこと。
- ・自分が差別等を行わないことだけでなく、「感染した個人を特定して非難する」「感染者と同じ職場の人や、医療従事者などの家族が感染しているのではないかと疑い、悪口を言う」など身の周りに差別等につながる発言や行動があったときには、それに同調せずに、「そんなことはやめよう」と声をあげること。
- ・感染を責める雰囲気広がると、医療機関での受診が遅れたり、感染を隠したりすることにもつながりかねず、結局は地域での感染の拡大にもつながり得ること。

などが示されました。

一方、本校においては、子どもたちの発達段階に応じて同様の指導をしているところです。大人だけでなく、子どもたちにとっても、いざ、自分の周囲にそうした事態が起こったとき、冷静な判断が必要です。平素の学校生活において、上記のような留意点を配慮し、指導に努めてまいります。

なお、日本赤十字社のWEBページ (www.jrc.or.jp) には、「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」として、以下(抜粋)の資料が記載されています。是非ご覧になり、ご家庭や地域での話題としていただければ幸いです。



【日本赤十字社提供資料より抜粋】

第2回学校運営協議会を開催しました

今回は、4年1組の外国語活動の授業を参観後、ユニット型研修(学校運営協議会の委員さんも教員に混じって、授業に関する協議を行うこと)を行いました。委員さんからは、

- ・子どもたちが(英語で)よく話していた。
 - ・ALT(マイカ先生)と担任(古市教諭)との連携が、とてもよかった。
 - ・子どもの個人差を先生がよく配慮していた。
- という感想をいただくとともに、
- ・発音や表情もあるので、マスクではなくマウスシールドがよかったのではないかと。

という貴重なご意見もいただきました。教職に携わらない方からのご意見は、私たち教職員にとって大変参考になるものでした。

家庭教育支援チーム(仮)が始動しました

今年度、川下中学校区が「PTAと連携した家庭教育支援の在り方に関する調査研究事業」(県)のモデル校区となっています。本校においても、PTA役員さんとそのOBの計7名の方にご協力いただいています。

先日、就学時健康診断の際に、第1回目の活動として、保護者を対象としたカフェを開催しました。「最近ほめたこと」など、チームが準備したテーマで楽しく歓談できました。



チームメンバーの話を聞く保護者